

哲学の世界

責任者・コーディネーター	人間科学科哲学分野 遠藤 寿一 教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科哲学分野		
担当教員	遠藤 寿一 教授		
対象学年	1	区分・時間数	講義 21 時間
期間	後期		

・学習方針（講義概要等）

「人間とは何か」という問に対して、自然科学や社会科学は人間の持つ一つの特性に着目し、それを解明することでこの問に答えようとする。例えば、生物学であれば、遺伝子構造の観点から人間と他の動物の違いを説明し、経済学であれば、経済行動という観点から人間を説明する。他方、哲学は、こうした諸学の成果を踏まえながら、専門領域横断的に、トータルな人間の姿を描き出そうとする。「哲学の世界」では、このような哲学の試みの一つとして、心と身体、性、経済、進化、いじめ等をキーワードに、人間とはどのような存在なのかについて考える。

・教育成果（アウトカム）

「人間とは何か」という問いを導きの糸とし、諸科学の知見を参照しながら、人間という概念を組み立て直すことで、人間についての理解を深めることができる。また、そうして得られた人間についての理解を、現実の問題（脳死、性差別など）に適用し、これらの問題に対して、合理的な根拠に基づいた自分なりの視座を形成することができる。（ディプロマ・ポリシー：1.8）

・到達目標（SBO）

1. 死、性といった問題を考える上で重要な概念（心臓死、脳死、セックス、セクシュアリティ、ジェンダーなど）を説明することができる。
2. 人間とは何かについて、自分なりの考えを提示することができる。
3. 人間についての自分の考えと、現実の問題とを関係づけることができる。

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
9/7	木	2	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	はじめに 1. 哲学的に考えるとどのようなことかを説明できる。
9/14	木	2	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	心と身体ー人格の同一性① 1. ビデオを通じて、人格の同一性の問題とは何かを説明できる。
9/21	木	2	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	心と身体ー人格の同一性② 1. 動物主義と心理主義の違いを説明できる。
9/28	木	2	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	心と身体ー人格の同一性③ 1. 質的同一性と数的同一性の違いを説明することができる。
10/19	木	2	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	心と身体ー人格の同一性④ 1. 家族的類似性とは何かを説明できる。 2. 家族的類似性と認知心理学との関係を説明できる。
10/26	木	2	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	心と身体ー人格の同一性⑤ 1. 認知心理学と人格の同一性の関係を説明することができる。
11/2	木	2	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	心と身体ー人格の同一性⑥ 1. 人格の同一性についての理論を現実のケースに関係づけることができる。
11/9	木	2	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	性差ーセックス・セクシュアリティ・ジェンダー① 1. 性に関わる諸概念（セックス・セクシュアリティ・ジェンダー・ジェンダーアイデンティティ）を区別することができる。
11/16	木	2	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	性差ーセックス・セクシュアリティ・ジェンダー② 1. 有性生殖と無性生殖の長所と短所を指摘することができる。

					2. 性と死の関係について説明することができる。
11/30	木	2	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	性差－セックス・セクシュアリティ・ジェンダー③ 1. 動物の繁殖行動をめぐるオスとメスの関係を説明することができる。
12/7	木	2	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	性差－セックス・セクシュアリティ・ジェンダー④ 1. セックスとセクシュアリティのレベルにおける人間の性の多様性について説明することができる。
12/14	木	2	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	性差－セックス・セクシュアリティ・ジェンダー⑤ 1. 人間におけるセックスとジェンダーの関係について説明することができる。
12/21	木	2	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	性差－セックス・セクシュアリティ・ジェンダー⑥ 1. 社会・歴史的観点から、人間の性のあり方の今後について自分意見を述べるすることができる。
1/4	木	2	人間科学科 哲学分野	遠藤 寿一 教授	まとめ 1. 現実の問題を考えるうえで、哲学的思考が果たす役割について説明することができる。

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	フィロソフィー・ジム	スティブン・ロー	ランダムハウス講 談社	2003
参	文化論のアリーナ	文化論研究会	晃洋書房	2000

・成績評価方法

原則として以下のように成績を評価する。
平常点 20%（毎回の受講態度 10%+毎回の課題 10%）+レポート課題 80%

・特記事項・その他

本講義では、講義内容の理解を深めるため、毎回受講生に課題を出し、関連するテーマについて各自の考えをまとめてもらう。また講義についての疑問点等がある場合は、合わせて記載し、提出してもらう。課題の内容や疑問点の内容については、次回の講義の中で適宜とりあげ、解説を行う。なお、各回配布される資料を用いて、事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分とする。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（FAITH Fortission Si35300X/DVR）	1	講義資料作成、他
講義	ノート型 PC（富士通 FMV-BIBLO LooxC/E50）	1	講義資料作成、他
講義	ノートパソコン（富士通・FMVLCE70B）	1	講義資料作成、他